

飛騨高山

めでた通信

Vol.10 令和3年 新春号

「飛騨高山での思い出」特集

謹賀新年

皆様にとって良い年になりますように

現会員数(2020年12月現在)

特別会員 101名

サポート会員 217名

一般会員(FB会員) 34,656名

今回は「飛騨高山での思い出」特集です！
コロナの影響で外出がままならない時ですが、会員の皆様の思い出話を読んで旅行気分を味わってください！

表紙写真：後藤 和昌さん（令和2年度入会）

「日本人だけでなく、外国人も魅了する飛騨高山」

大島 徹也さん（平成28年度入会）

2020年3月に北陸信越運輸局のVISITジャパン事業の事務局を行った折、北は函館から南は金沢まで9泊10日というあわただしいスケジュールでクリスタルクルーズ社（米国）のクラウドゥス副社長を招請しました。日本滞在中に湾施設や観光地などを案内し、欧米の豪華クルーズ船のお客様を誘致するためのPR活動の為です。

全室スイートルームでラグジュアリーホテルのような豪華客船を所有するクリスタルクルーズ社からどうしても飛騨高山をゆっくりと観光したいとのリクエストがありました。飛騨高山は金沢港からの交通アクセスが良く、日本のどの地よりも魅力があるため、船で泊まるのでは無く、クルーズ船から降りて高山市内の旅館に泊まりたいとのスケジュールをお考えでした。日本滞在中の定番である酒や刺身、鮓だけでなく、高山では漬物に興味を持たれ、他と違ったNo.1を感じておられました。高山では定番の古い町並、高山陣屋に、宮川、陣屋前の朝市、和太鼓のステージ、高山祭屋台館を訪れましたが、どれも高評価でした。宮川の朝市では、漬物の赤かぶや珍しい木彫りなどの民芸品を見つけて屋台の売り手の女性に積極的に質問していました。今まで多くのクルーズ船の日本への誘致で関わってまいりましたが、飛騨高山の魅力を改めて実感した次第です。

飛騨高山は日本に数少ない富裕層を満足させることのできる観光地です。2021年4月にクルーズ船の旅が一斉に再開される予定とのことですが、来年の東京オリンピックの成功と高山の繁栄ぶりが目に浮かんできます。



「飛騨高山での思い出」

堀内 喜司夫さん（平成30年度入会）

私は平成23年春に文京区議会議員を定年退職するまで、恥ずかしながら故郷飛騨高山の観光スポットの一つ乗鞍岳に登ったことがなかった。

昭和43年春、18歳高校卒業と同時に故郷（高山市国府町）を離れ上京し、旧三菱銀行に入行。当時は土曜日も出勤、残業は夜10時までが当たり前はかなり過酷な労働だったが、良き上司や先輩にめぐまれ夜間の短期大学にも通うことができた。少しばかりの日曜日職場のレクリエーションなどが多く、自分の余暇時間はほとんどなかったように思う。そんな中、年一度お盆時期の故郷への帰省は、心許す唯一の旅となった。「故郷は遠くにありて思うもの」とあるが、年々郷愁が募り、様々な理由を探しては飛騨への帰省が続いた。

そんな折、父親が突然「飛騨の山をよく見ておけ」と、タクシーを借り上げて一緒に山巡りした思い出がある。当時は親父も若く元気で、農家よりも山に興味があり「久々野の山を買ったぞー」と得意げに案内をしてくれた。今にして思えば、山の価値に反対する母親の方が賢かったかもしれない。

そんな親父も平成20年1月に逝去し、家族とともに実家に帰省した折、ある晴れ渡る朝、国府バイパスの名張橋から雪化粧の乗鞍岳がくっきりと青空に浮かんで見えた。「アッ！乗鞍岳が」と息をのんだ。子どものころは、実家から乗鞍岳を望むことはなく、ましてや乗鞍岳登山も皆無の自分が、以来、乗鞍岳に無性に憧れるようになったのは親父との思い出によるのかもしれない。

故郷飛騨高山の思い出は尽きないが、実家を離れて50年。初めて登る乗鞍岳が亡き父母への感謝の念と重なり、これからもたびたび「乗鞍岳登山」をしながら、故郷への恩返しを楽しみたいと思う日々である。



「飛騨高山での思い出」

浅野良紀さん（令和2年度入会）

あれからはや20数年が経つ。高山市清見町上小鳥に別荘を購入しました。実家は、一宮市ですので今では、高速道路にて一時間程で到着しますが、20年前は、美濃までしか開通してなく、順次全線開通して4車線化も無事完成渋滞も無く大変便利です。

購入のきっかけは、溪流釣りが趣味で荘川等に来て美しい自然に魅了されました。別荘地には、民家もなく隣のログハウスには永住している人もみえますが、あと数棟は近隣の人々でした。

夏は涼しく朝方は気温が10度程で大変過ごし易く夜中に都会のコンクリートジャングルから車を走らせよく来ていました。美しい自然も冬になると一変して零下20度以下になり、一番苦労した事は、積雪です。除雪をしないと2m程積もる事もあり家が倒壊する恐れがあります。雪降ろしは、危険が伴い体力が必要です。雪と言うより氷の塊のようです。最近では積雪量が少ない年が続いていますが、今年の冬は多いと予報されています。また、春になると水道管の破損も起こります。

でも悪い事ばかりでなく風の無い晴れた朝には、スターダストが観れます。また春になるとふきのとうから始まり様々な山菜が収穫できます。秋にも色々な茸などがお目見えして大変美味しく頂いております。何よりも地元の人達と沢山友達になり月に一度のペースで高山にきています。別荘には泊まらず高山のホテルに泊まり美味美酒を堪能しています。

最後に新型コロナウイルス終息後には、大勢の観光客を世界から呼び、高山の素晴らしさを観て体験し感動していただきたいです。

私はこの美しい高山をもっと知ってもらいたいです。



「飛騨高山での思い出」

永井崇文さん（令和2年度入会）

「それなら高山に行こう。」と妻に提案したのは約2年前のことでした。娘が2歳半になり、俗にいうイヤイヤ期の真っただ中ということもあり、家族の気分転換と娘の外泊体験を兼ねた旅行を計画していたときでした。娘も楽しめること、幼児がいても気兼ねなく宿泊できること、余裕をもった行程が組めることなど希望要件を満たす観光地を探していたところ、ふと「飛騨高山」が頭に浮かんだのです。まさか1年半後に高山に転勤になるとは、その時は思いもよりませんでした。そして旅行初日、途中まで寝ていた娘でしたが、目を覚ました荘川あたりの雪景色をみるとテンションが上がリ、しきりに車窓から流れる風景をみていました。高山陣屋や古い町並を散策し、途中で食べ歩きをしました。いつもは決まった時間に食事をしている娘も食べ歩きは楽しく、特にその時食べたぜんざいが美味しかったようで、今もあんこが大好きなのはきつとこの時の経験によるものだろうと思っています。

そしてチェックイン。宿泊は奮発したこともあり、部屋には展望風呂が付いているのです。家の風呂より大きく、お椀のような風呂に娘も大興奮し、普段は入るのを嫌がるのに率先して入り始めたのです。これには私も妻も顔を見合わせて笑いました。



次の日は奥飛騨のクマ牧場に行きました。最初は恐る恐るだった娘もクマに餌やりをしているうちに次第に楽しくなり、声をかけたり、お目当てのクマを呼んだり満喫していました。そんな娘からクマの餌の追加をせがまれました。断ることなどできるはずもなく、お互いのメリットが一致した娘とクマの前にあっさりとお尻を脱いだのでした。その後、娘はクマのぬいぐるみで遊んだり、一緒に寝たりと余程楽しい印象が残ったようです。

めでたく今年8月に2人目が生まれましたが、また高山に家族旅行に来たいと思っています。どんな反応をみせてくれるのか今から楽しみです。



「故郷飛騨高山の思い出」

小垣内 昭司さん（平成30年度入会）

高山在住は生まれて23年間。今は、東京でサロン経営しています（次世代にバトンタッチ）。1958年から1966年頃、当時の高山は、自給自足で農家がほとんどでした、家族で育てた野菜を市内の街中へ、おふくろと4kmの道のりを、リヤカーで運び、市内の安川通りで販売していました（今の朝市）。生まれ育った山田町から、壮大な北アルプスを見ることができ、今思えば素晴らしい風景に思います。古い町並、上二之町のBB丸山に中卒から見習いとして入店、まだ技術もできず下働き、春の高山祭には師匠の代理で人足として出されたものです。屋台の出し入れ、また袴を着せられ祭の行列に参加をしました。今思えば故郷のとても懐かしく貴重な体験でした。（就業したサロンは閉店、町並保存のため、行政からの要望で格子戸になっている。）昭和の青春時代は、同期生、同業の友と遊びまわった思い出のところがいっぱいあります。古い町並、三町、高山城跡地（城山公園）、春の高山祭の山王（日枝）神社、秋の高山祭の八幡神社、少し郊外はサイクリングで行った天生峠、白川郷、御母衣ダム、北アルプス乗鞍岳のバス旅行、朝日の美女公園、国府町のあじめ公園、四十滝、何処へ行っても里山を感じさせてくれる我がふるさとでした。半世紀に近い都会生活、いま走馬灯のごとくよみがえっています。帰郷するたびに懐かしい所を訪ねています。

東京に出て、職人として日本橋のサロンに6年間勤務、北区東田端にて独立開業、屋号を決めるとき、私の名字ではインパクトがなく、当時、今のJR（旧国鉄）がディスカバージャパンと銘打って飛騨を宣伝していました。妻も飛騨出身なので、ヘアサロン飛騨と決めました。店内には観光課から送っていただいたポスター掲示を四季折々に変えていました。45年の営業を終えて、二代目にバトンタッチ。屋号もROSSO田端店となり、4店舗のサロンで若社長のもとスタッフが頑張ってくれています。新型コロナウイルス感染症という大変なご時世ですが、全国の観光地も大変なようです。働き方改革はもちろんですが、生活様式も変えざるを得ません。故郷の活性化のため、皆さんで知恵を出し合って頑張ってください。私も元気なうちの現役で頑張り、関東地区のサポート会員として故郷の情報をできる限り発信、応援していきます。



「中橋の桜」

田崎 由香里さん（平成30年度入会）



「飛騨高山での思い出」 保母勝寿さん（平成29年度入会）

毎年、「高山祭」の季節を迎えると15年も前の留学生との祭り見学を思い出しております。当時在職していた中部学院大学では、モンゴル国立大学と提携し、日本語科の学生2名を第1期生として受け入れられました。勉強の間に日本文化なども学んでもらおうと、丁度都合よく「秋の高山祭」が近く開催されることと草原の国モンゴルでは見られない日本の四季、秋の紅葉見学を企画し、留学生2人（もちろん女子学生ですよ）を白川郷合掌村→莊川経由で高山入りしました。（マイカーでガイド兼運転手です）

すごい人ごみの祭り見物客をかき分け、絢爛豪華な屋台のからくり人形の妙技の数々を間近に見て目を輝かし興奮する2人ともに自分も楽しんだあの日のことを「いま彼女達はどのようにしているかな？」と思い浮かべています。ついでに失敗談も紹介しましょう。帰路は西ウレ峠からせせらぎ街道を経て岐阜・関市をドライブ。当時は明宝に「有料道路料金所」が在りました。夜間10時以降は「無料」なので時間調節してゲートまで来ると「職員がいる！」なんと「高山祭」の時は11時迄、職員曰く「稼ぎ時だからね」と全然知らなかった失敗談です。

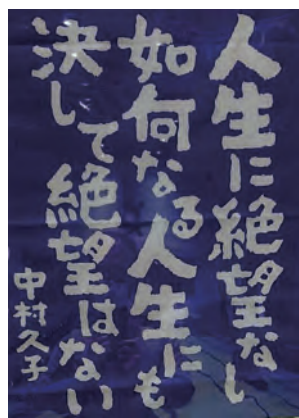
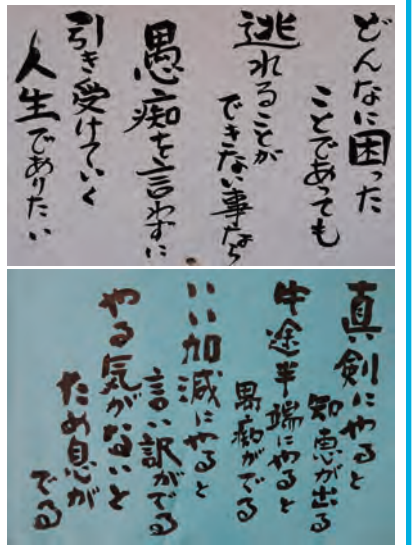


「飛騨高山での思い出」鷲見康生さん（平成28年度入会）

皆さん、こんにちは。私は昭和47年8月30日に旧高山市役所（馬場町）前にあった産科にて誕生しました。城山保育園と東小学校と東山中学校と進み、当時は鉄道が大好きで暇さえあれば高山駅に行っていましたね（笑）。東京に鉄道科の高校がある事を知り、両親に何度か相談して許しを頂き、単身上京して進学しました。現在は首都圏の大手私鉄にて電車の車掌をしています。さて、飛騨高山での思い出ですが、現在の飛騨高山は本当に都会化してますよね！かつてはマクドナルドなんて名古屋に行つた時とかで無いと食べられませんでしたが、



月曜日発売の某週刊少年誌なんて火曜日発売でしたから。また名古屋に行くのも特急でさえ3時間半とか要してましたし、東京や大阪に直通するバスも当然ながらありませんでした。年に数回の帰省とかで変化に気付いたりする事が出来ているのは、飛騨高山を離れたからこそかもしれません。また幼少時には広く感じられた城山や北山の坂道とか市街地の路地なんかも、車の運転が出来る様になつてから行つてみたら物凄く狭かつたんだなという驚きも。私が勤務する鉄道会社は成田空港に駅がありますので、外国人旅行者を多く見かけますが。たまに「飛騨高山」と書かれた土産袋を持参して母国に帰られる方々を見かけると、『ああ、飛騨高山を旅行してくれたんだな』と嬉しくなりますね。最近では映画やアニメとかにも多々登場してて聖地巡礼をされる方も多いですが、職場で話題が出た時には自分が出身である事を自慢が出来たりするのもまた良いですね。



写真：高山別院照蓮寺の掲示版

「お寺の掲示版」

林章二さん（令和元年度入会）

お寺の掲示版という本を御存じでしょうか。日本全国のお寺の掲示版に掲示してあるメッセージを讀者が写真撮影して投稿しそれを審査の上、受賞作品を集めて発刊されています。

私は、実家が八幡町ということもあり、帰省時は江名子川沿いや東山遊歩道周りの神社仏閣の散策が好きです。

その一つの楽しみに、お寺の掲示版があります。今年には特に新型コロナウイルスの影響ということもあり、閑散とした高山でお寺の掲示版が心に沁み、元気をもらいました。皆様も心が少し疲れたと思われたら、心のふるさと高山の東山にお立寄り下さい。

「飛騨高山の思い出」

小林喜好きさん（平成27年度入会）

私は、東尋坊で有名な福井県坂井市三国町の出身であり、平成23年4月に初めて高山の新宮町にある国土交通省中部運輸局岐阜運輸支局自動車検査登録事務所長として赴任しました。その時が、今ではすっかりブランド化している「飛騨ナンバー」の誕生20年目にあたる年でした。

この年は東日本大震災が発生した年で、当初お祝い事は控えていましたが、夏頃から暗いことばかりではいけないと風潮が変わり、関係者の皆様の絶大なるご協力をいただき、飛騨自動車検査登録事務所開設20周年記念式典を開催することができました。これも決まった時は事業仕分けの真つ最中であり、当時の上司からはこんなに目立つたことをしてとおしかりを受けましたが、飛騨の人はこんなことではくじけないという強い信念でありました。学歴も工業高校の機械科しか出てない者が、国の出先機関の所長を拝命し、しかもこんなにもめでたい式典に出会うなんて夢にも思っていませんでした。そんなこともあり、飛騨地区の自動車業界から定年退職後も高山に残ってほしいとの要望があり、自分としても高山に何かご恩返しができないかと思っていました。ちょうど「飛騨高山めでの会」が発足したのを機に、会員として入会し、会員を対象にした市内ツアーで体感した高山の良き文化・施設の魅力を基に、同窓会や旅行で各地を訪れた際に、「飛騨高山めでの会」の名刺を活用・配布させていただき、飛騨高山のPRをさせていただきます。

現在は、（一社）岐阜県自動車整備振興会飛騨会館にて、整備工場などからの相談やお問合せ等のお手伝いをさせていただきます。

ちなみに来年は「飛騨ナンバー」ができて30周年を迎えることとなります。

飛騨地区には飛騨自動車検査登録事務所は必要不可欠な施設です。ずっと後世まで残っていてください。



「飛騨高山での思い出」五十嵐久喜さん（平成30年度入会）

私は、今では静岡県浜松市に居を構えるが、高山「秋の八幡祭」で有名な八幡町で生まれ育った。

櫻山八幡宮境内を出ると江名子川に向かって南に一本の道路がある。商店街でもない閑静な住宅地の間に昭和30〜40年代にかけて駄菓子屋が2軒、せんべい屋、貸本屋、鍛冶屋、衣料雑貨店、八百屋、こんにゃく店、生花店、薬屋もある200m足らずの風情豊かな通りであった。脇道に入れば銭湯、ほんの少し歩けば大映の映画館（高山市には映画館が2軒あった）もあった。比較的、人通りの多い通りであったが、観光客らしき人は終ぞ見たことがなかった。それはさんまち通りも同様で、特に平日は閑散としていた。その一方、高山市で一番の繁華街であった本町商店街は活気が溢れていた。その頃の高山市は、観光客ではなく市民の生活感溢れた町であったのだ。

昭和43年（1968年）に高山祭屋台会館・櫻山日光館、獅子会館が建設されるのだが、それ以前は、多くの原木が積まれた製材所（当時の子供たちはこの危険な場所も遊び場であった）や空き地、さらには私に通っていた櫻山保育園があった。その園庭の側溝にはきれいな湧き水が流れており、初夏には多くの蛍が見られた。また、夏の風物詩である高山花火大会を見る家族連れで賑わったものである。しかし、屋台会館等が建設されてしばらく、保育園や空き地も姿を消した。時を同じくして、高山市の観光客が年々急激に増えていった。特に、さんまち通りや宮川朝市は、インバウンドの増加も一因であろうが活気横溢になり、今では市民よりも観光客が大半を占めるようになった。対照的に、あれほど賑やかだった本町商店街は中心部の空洞化もあるのだろうが、徐々に衰退しているように感じられるほどである。ちなみに現在では、八幡町のこの通りも昭和40年当時から残っているのはこんにゃく店だけとなった。

江戸〜明治時代の建造物を守る反面、昭和の良き文化が失われたような気がして少し残念でならない。

「結婚式の思い出」

北村学さん（令和元年度入会）

皆さんは、結婚式の日取りを間違えて式場に行ってしまったことがありますか。私はあります。そして、今でも忘れることができない思い出になっています。

私の母は、「飛騨高山」で生まれ育ちました。そして、当時、高山本線で機関士をしていた父と結婚し、父の郷里の滋賀県（米原市）の琵琶湖畔へ嫁いできました。母は、私の小さい頃から、まるで昔話を読み聞かせるように「高山まつり」や「左甚五郎」、「乗鞍岳」、「みたらし団子」・・・等、每晚笑顔で自慢げに話してくれました。そのため、小さい頃から私は母の実家へ盆、正月に帰省することが何よりの楽しみで、大人になってからもバイクやスキーなどで数えきれなくらい「飛騨高山」へ行きました。

三十年くらい前、私（二十代後半）は、母の代理で親戚の結婚式に出席することになりました。母は若かった私に結婚式の日取りを間違えないように何カ月も前から何度も、まるで昔話を読み聞かせるように言い聞かせました。そして、結婚式当日の早朝から車で国道41号線を5時間かけて「飛騨高山」へ向かいました。しかし、道中でブレーキに不具合が生じ、到着早々、郊外の自動車整備店へ車を持ち込みました。ところが、車は屋頂まで直らないとのことでした。これでは、結婚式に遅れてしまうと困っていると、店員さんから会場のホテルまで送ってあげるよと言っていただき、また、式が終わったら迎えにも来ていただけることにもなりました。母の故郷とは言え、旅先で「飛騨高山」の暖かい心に、情けに触れ、あらためて感動しました。（母ちゃんありがとう。）そして、店員さんの運転で小高い山の上に建っているホテルへ送っていただき、フロントで、今日の結婚式に参列するので着替えのできる部屋を案内してほしいと伝えました。すると、急に周りは騒然とし、係員の何人の方があたふたとロビーを行ったり来たりされました。そして、私に、「〇〇様の結婚式は、1週間後の□□日です。招待状を拝見させていただきますか。」と言われました。招待状を見ると（私もはじめて）、1週間後の日付がはつきりと印刷されており、その瞬間、私の思考は止まりました。こんな漫才のネタみたいな、テレビのドラマみたいなことが現実には、本当に起こるのかと、宝くじにでも当選したかのように、その場にヘタヘタと座り込むような思いでした。その頃親戚では、叔母さんたち一同が、結婚式に披露する「踊り」の稽古に集まっておられ、この騒動を聞き大変な騒ぎになっていました。話し合いの結果、「1週間後の結婚式は欠席でいいから、今日、お祝いだけを当家に届けて帰ってね。」ということになりました。今から考えても大変恥ずかしい思いをしました。もちろん、母に怒って電話しました。すると、母は「お前がちゃんと確認せんでや。親に恥をかかせるな、もう。」などと逆に怒り、まるで昔話を読み聞かせるように懇々と私を言い含めました。母は、頑固で負けず嫌いな、頑なな飛騨の人でもありました。

「飛騨高山」の幾多の思い出がありますが、今でも、番外編でこの思い出が心に刻まれています（都合で書けません、実はさらなる話のくだりがあります。）。

今回投稿して下さった会員の皆様、様々なエピソードをどうもありがとうございました！



飛騨高山めでた通信 VOL10(特別会員・サポート会員会報誌)

飛騨高山めでたの会事務局
(高山市企画部ブランド戦略課内)

〒506-8555 岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
TEL(0577)35-3001 FAX(0577)35-3174
MAIL:brand@city.takayama.lg.jp

めでたの会事務局では、より良い会・良い高山市にするためのアンケートを実施しています。ご協力をお願いします。

